

実験動物の技術と応用 入門編 増補改訂版（第三刷）にあたっての訂正点

訂正・追加箇所	訂正前（初版、第二刷）	訂正後（第三刷）
p. 13 「2. 日本の法令と動物福祉」上から8行目	「この <u>基準書</u> の中には～」	「この <u>基準</u> の中には～」
p. 20 「4. 血液、(1)血液の性質と成分」の項、上から1行目（記述内容の適正化）	「この細胞成分の体積のうち、大部分を占める赤血球の割合をヘマトクリット (Ht) という。」	「この細胞成分のうち、大部分を占める赤血球の割合をヘマトクリット (Ht) という。」
p. 21 1. 口腔の項 上から10行目（記述内容の適正化）	「口腔には、耳下腺、下顎腺、舌下腺という～」	「口腔周囲には、耳下腺、下顎腺、舌下腺という～」
p. 25 「2. 雄の生殖器の項、上から12～14行目（記述内容の適正化）	「前立腺は精液成分の大部分を分泌する。精嚢は精管が尿道に入る直前の部分から飛び出している袋状の器官である。精嚢は精液成分の一部を分泌する。」	「前立腺は精液成分を分泌する。精嚢は精管が尿道に入る直前の部分から飛び出している袋状の器官である。精嚢は精液成分を分泌する。」
p. 80 表 10-3 カテゴリーDの選択基準の欄（脱字）	「健康な <u>マウ</u> ・ラットの体内にしばしば存在するが、～」	「健康な <u>マウス</u> ・ラットの体内にしばしば存在するが、～」
p. 96 「② 系統」の項、上から13行目	「近交系間で交配した <u>CDF1</u> 、 <u>BDF1</u> 、B6C3F1 など～」	「近交系間で交配した <u>CD2F1</u> 、 <u>B6D2F1</u> 、B6C3F1 など～」
p. 114 「2. 飼育管理作業、(2) 給餌」の項、上から4行目	「～、2～3日分の <u>資料</u> を入れ自由摂取～」	「～、2～3日分の <u>飼料</u> を入れ自由摂取～」

(次頁に続く)

「表 7-1 ネコの人獣共通感染症」
(誤)

表7-1 ネコの人獣共通感染症

分類	病名	病原体名	症状	
			ネコ	ヒト
細菌性疾患	ネコひっかき病	<i>Bartonella henselae</i>	ほとんど無症状	咬まれたり、引っ掻かれた部位の発赤
	パスツレラ症	<i>Pasteurella multocida</i>	ほとんど無症状	隆起、化膿性痂皮、リンパ節腫大
	皮膚糸状菌症	<i>Microsporum canis</i> など	鱗屑、発赤・発疹、円形脱毛	鱗屑、発疹、痒み、白癬疹
寄生虫性疾患	トキソプラズマ病	<i>Toxoplasma gondii</i>	幼猫：下痢、神経症状、肺炎 成猫：ほとんど無症状	妊婦が初感染を受けた場合、先天性トキソプラズマ症状（胎内死亡、流産、網脈絡膜炎、水頭症など）の発症
	回虫症	<i>Toxocara cati</i>	幼猫：嘔吐・下痢、被毛粗造、体重低下 成猫：ほとんど無症状	内臓幼虫移行症、眼幼虫移行症
	疥癬症	<i>Notoedres cati</i>	黒い耳垢、激しい痒み、皮膚炎	皮疹、痒み、皮膚炎



(正: 訂正部位赤字)

表 7-1 ネコの人獣共通感染症

分類	病名	病原体名	症状	
			ネコ	ヒト
細菌性疾患	ネコひっかき病	<i>Bartonella henselae</i>	ほとんど無症状	咬まれたり、引っ掻かれた部位の発赤
	パスツレラ症	<i>Pasteurella multocida</i>	ほとんど無症状	隆起、化膿性痂皮、リンパ節腫大
真菌性疾患	皮膚糸状菌症	<i>Microsporum canis</i> など	鱗屑、発赤・発疹、円形脱毛	鱗屑、発疹、痒み、白癬疹
寄生虫性疾患	トキソプラズマ病	<i>Toxoplasma gondii</i>	幼猫：下痢、神経症状、肺炎 成猫：ほとんど無症状	妊婦が初感染を受けた場合、先天性トキソプラズマ症状（胎内死亡、流産、網脈絡膜炎、水頭症など）の発症
	回虫症	<i>Toxocara cati</i>	幼猫：嘔吐・下痢、被毛粗造、体重低下 成猫：ほとんど無症状	内臓幼虫移行症、眼幼虫移行症
	疥癬症	<i>Notoedres cati</i>	黒い耳垢、激しい痒み、皮膚炎	皮疹、痒み、皮膚炎

(次頁に続く)

訂正・追加箇所	訂正前（初版、第二刷）	訂正後（第三刷）
p. 127 右欄、「分娩の際の注意」の欄、上から5行目 (用語の統一)	「～を作らず、子を1頭ずつ分散して～」	「～を作らず、子を1匹ずつ分散して～」
p. 147 表 7-2 ネコの主な感染症 ネコ白血病の病原体名（スペルミス）	「Feline <u>leulemia</u> virus」	「Feline leukemia virus」
p. 150 「4. 麻酔法」の項、上から3～4行目（一部削除）	「ネコの全身麻酔に汎用される注射麻酔薬にはチオペンタールナトリウム、塩酸ケタミン、 <u>メデトミジン</u> 、 <u>ミダゾラム</u> 、 <u>プロポフォル</u> 等がある。」	「ネコの全身麻酔に汎用される注射麻酔薬にはチオペンタールナトリウム、塩酸ケタミン、プロポフォル等がある。」
p. 150 表 7-3 ネコの主な注射麻酔薬の脚注（スペルミス）	「Laboratory Animal Anaesthesia 4th ed., P. <u>Fleckell</u> , 2016 の Table 5.15 から一部抜粋して掲載」	「Laboratory Animal Anaesthesia 4th ed., P. <u>Flecknell</u> , 2016 の Table 5.15 から一部抜粋して掲載」
p. 169 「8. 健康管理、(2) 感染症」の項、上から1行目	「主な感染症を右欄に示す。」	「主な感染症を次頁右欄に示す。」

2024/04

実験動物の技術と応用 入門編 増補改訂版（第三刷）の正誤表

下記の通り、記載内容に一部誤りがありましたので訂正いたします。

訂正・追加箇所	誤	正
p. 110 3. 交配の項 上から2行目 (用語の適正化)	「 <u>交配</u> が成立していれば、～」	「 <u>交尾</u> が成立していれば、～」
p. 110 4. 妊娠の項 上から1行目 (用語の適正化)	「 <u>交配</u> が成立し妊娠すると～」	「 <u>交尾</u> が成立し妊娠すると～」
p. 110 右欄 「偽妊娠」の項 上から3～4行目 (用語の適正化)	「この時に <u>受精胚</u> を移植すると、～」	「この時に <u>胚</u> を移植すると、～」
p. 147 表 7-2 ネコの主な 感染症 ネコカリシウイルス 感染症の病原体名 (スペルミス)	「Feline <u>calcivirus</u> 」	「Feline <u>calicivirus</u> 」
p. 147 表 7-2 ネコの主な 感染症 ネコ白血病の病原体 名 (スペルミス)	「Feline <u>leulemia virus</u> 」	「Feline <u>leukemia virus</u> 」
p. 147 表 7-2 ネコの主な 感染症 猫条虫の病原体名 (スペルミス)	「Taenia <u>taeniaeormis</u> 」	「Taenia <u>taeniaeformis</u> 」
p. 147 表 7-2 ネコの主な 感染症 瓜実条虫の病原体名 (スペルミス)	「 <u>Dipyliidum</u> caninum」	「 <u>Dipylidium</u> caninum」
p. 152 1. ブタとミニブタの 項 上から1～2行目 (一般的な学名に修 正)	ブタ (学名: <u>Sus scrofa</u> <u>domesticus</u> [ヨーロッパ種] また は <u>Sus vittatus domesticus</u> [ア ジア種]) は～	ブタ (学名: <u>Sus scrofa</u> <u>domesticus</u>) は～
p. 152 右欄 「歯式」の項 (乳歯の歯式の訂 正)	乳歯: i1/1, c1/1, p0/0, m0/1= 10 永久歯: I3/3, C1/1, P4/4, M3/3=44	乳歯: i3/3, c1/1, p3/3=28 永久歯: I3/3, C1/1, P4/4, M3/3=44

202408